

- 近年の水災害による甚大な被害を受けて、施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える水防災意識社会の再構築を一步進め、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う流域治水への転換を推進し、防災・減災が主流となる社会を目指しています。

## これまでの対策

施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える、水防災意識社会の再構築  
洪水防御の効果の高いハード対策と命を守るための避難対策とのソフト対策の組合せ

変  
化

### 気候変動の影響

今後も水災害が激化。これまでの水災害対策では安全度の早期向上に限界があるため、整備の加速と、対策手法の充実が必要。

### 社会の動向

人口減少や少子高齢化が進む中、「コンパクト+ネットワーク」を基本とした国土形成により地域の活力を維持するためにも、水災害に強い安全・安心なまちづくりが必要。

### 技術革新

5GやAI技術やビッグデータの活用、情報通信技術の進展は著しく、これらの技術を避難行動の支援や防災施策にも活用していくことが必要。

対策の  
重要な  
観点

### 強靱性

甚大な被害を回避し、早期復旧・復興まで見据えて、事前に備える

### 包摂性

あらゆる主体が協力して対策に取り組む

### 持続可能性

将来にわたり、継続的に対策に取組、社会や経済を発展させる

これからの  
対策

気候変動を踏まえた、**計画の見直し**

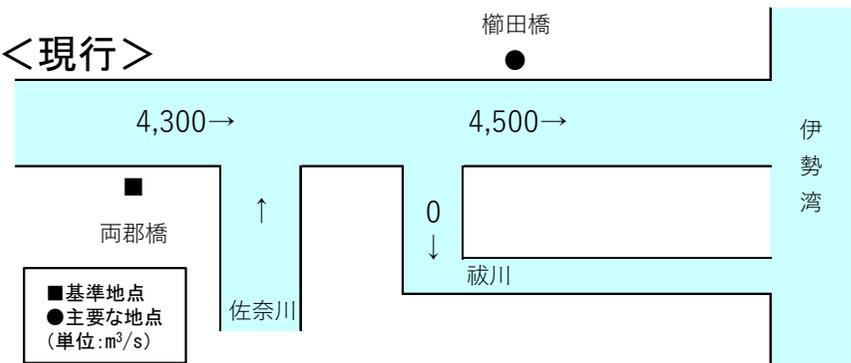
河川の流域全体のあらゆる関係者が協働して  
流域全体で行う持続可能な治水対策  
**「流域治水」への転換**

# 櫛田川水系における気候変動を考慮した河川整備基本方針の変更について

- ・現在、櫛田川水系において気候変動による降雨量の増加等を考慮した河川整備基本方針の見直しを行っております。
- ・「第156回 河川整備基本方針検討小委員会」、「第159回 河川整備基本方針検討小委員会」において審議が行われました。

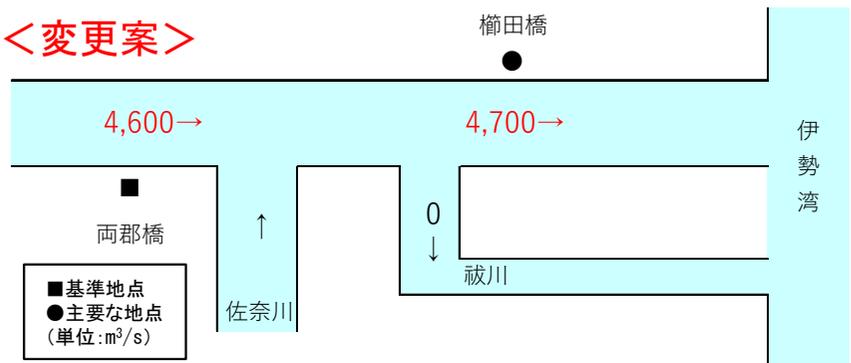
## 変更後の流量配分（計画高水流量）

### <現行>



	基本高水のピーク流量(m³/s)	洪水調節施設による調節流量(m³/s)	河道への配分流量(m³/s)
両郡橋	4,800	500	4,300

### <変更案>

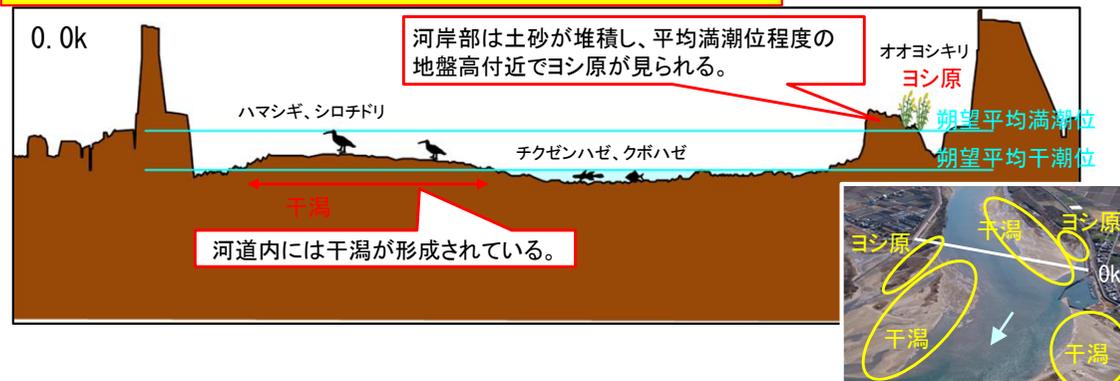


	基本高水のピーク流量(m³/s)	洪水調節施設による調節流量(m³/s)	河道への配分流量(m³/s)
両郡橋	5,500	900	4,600

## 掘削箇所における環境の保全・創出の概念図（櫛田川河口部：干潟・ヨシ原、ワンド）

- 河道掘削に当たっては干潮位～満潮位間で形成される干潟環境が創出されるよう掘削高を工夫する。
- 干潟に隣接するようにオオヨシキリの生息場となるヨシ原環境を創出する。
- 稚魚類の生息場等となるワンド環境を保全、創出する。
- 掘削後もモニタリングを実施し、順応的な対応を行う。

### 櫛田川における良好な環境を有する区間（櫛田川0.0k付近）



### 河道掘削箇所における環境の保全・創出の概念図（櫛田川2.0k付近の例）

